



整列！





先ほどアルファ地方から
救援を求める電報が入った。

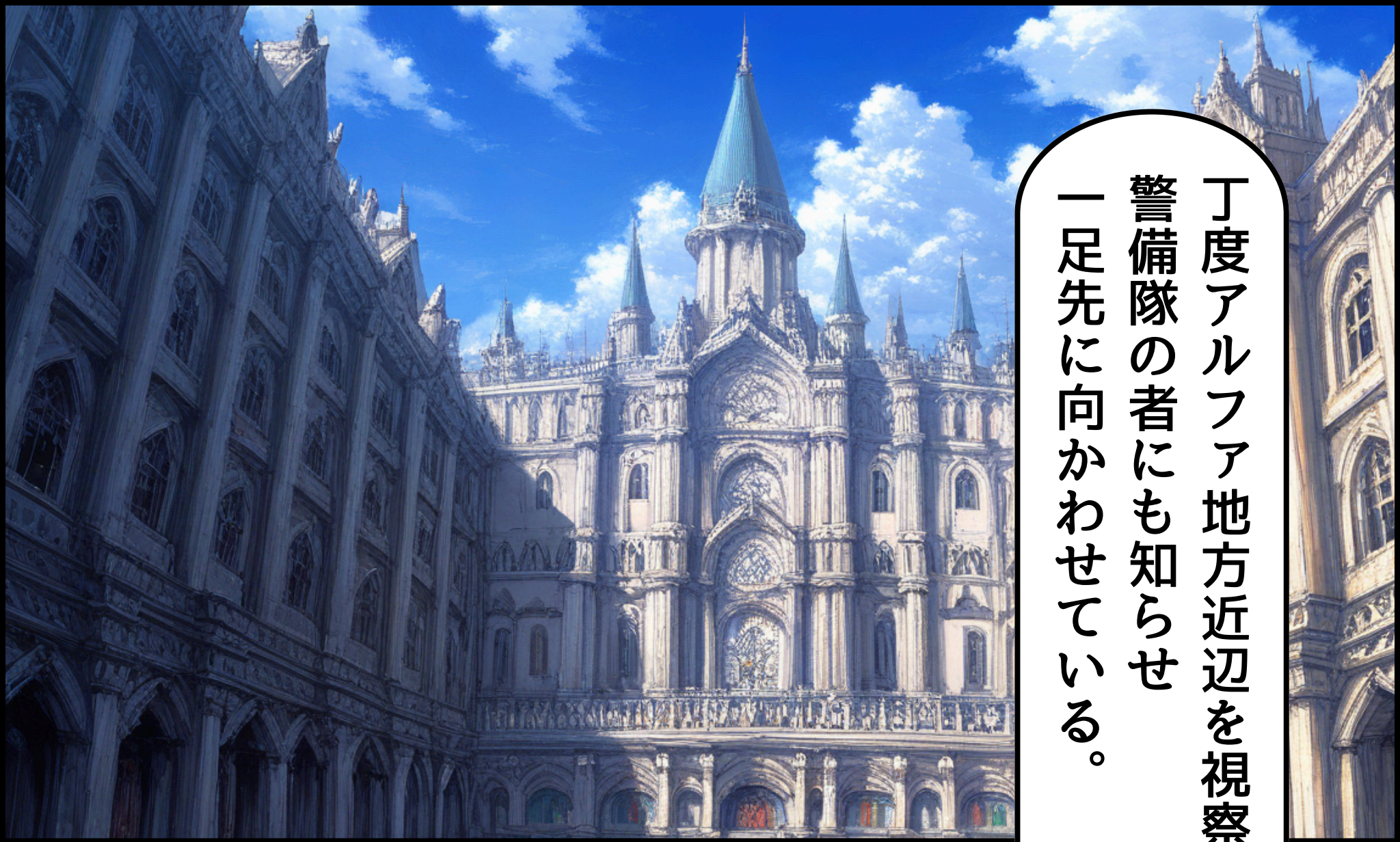


また反乱軍が町を襲い
被害が出ているそうだ。



またか。。。。

そろそろまた
暴れる頃だろうと思っていたが。。。。



丁度アルファ地方近辺を視察中だった
警備隊の者にも知らせ
一足先に向かわせている。



ハッ！

我々も

明日未明にこちらを出発するぞ。


承知しました！

ふー・・・


スタスタ

これで近辺の住民たちは
みんな避難できたかな。





後は襲撃され被害のあった
エリス通りの捜査ね。



反乱軍の次の動きを
予想しなきや。
手遅れになる前に。

情報を集めないとい！

急いでカイルたちと合流しよう。

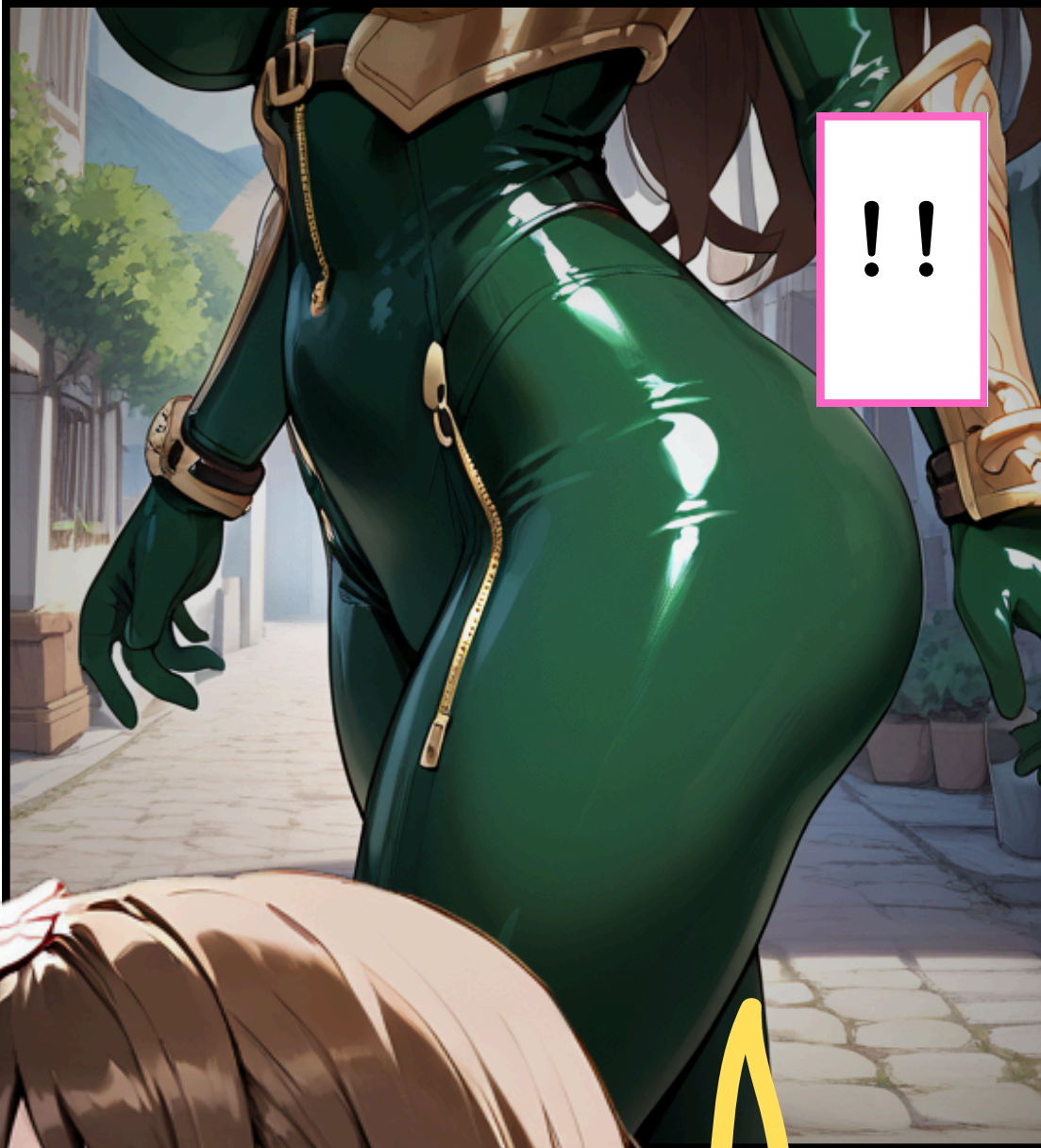
被害が出る前に

失手を打たないとい！



あ・・・
この感じ・・・！

ど
タ



！！



ズキッ

いっ！

やっぱり来た！

また・・・
この痛み・・・！

これで5度目だわ……

この原因の
分からない頭痛が

いつから
始まったかというところ……

ー2週間前ー

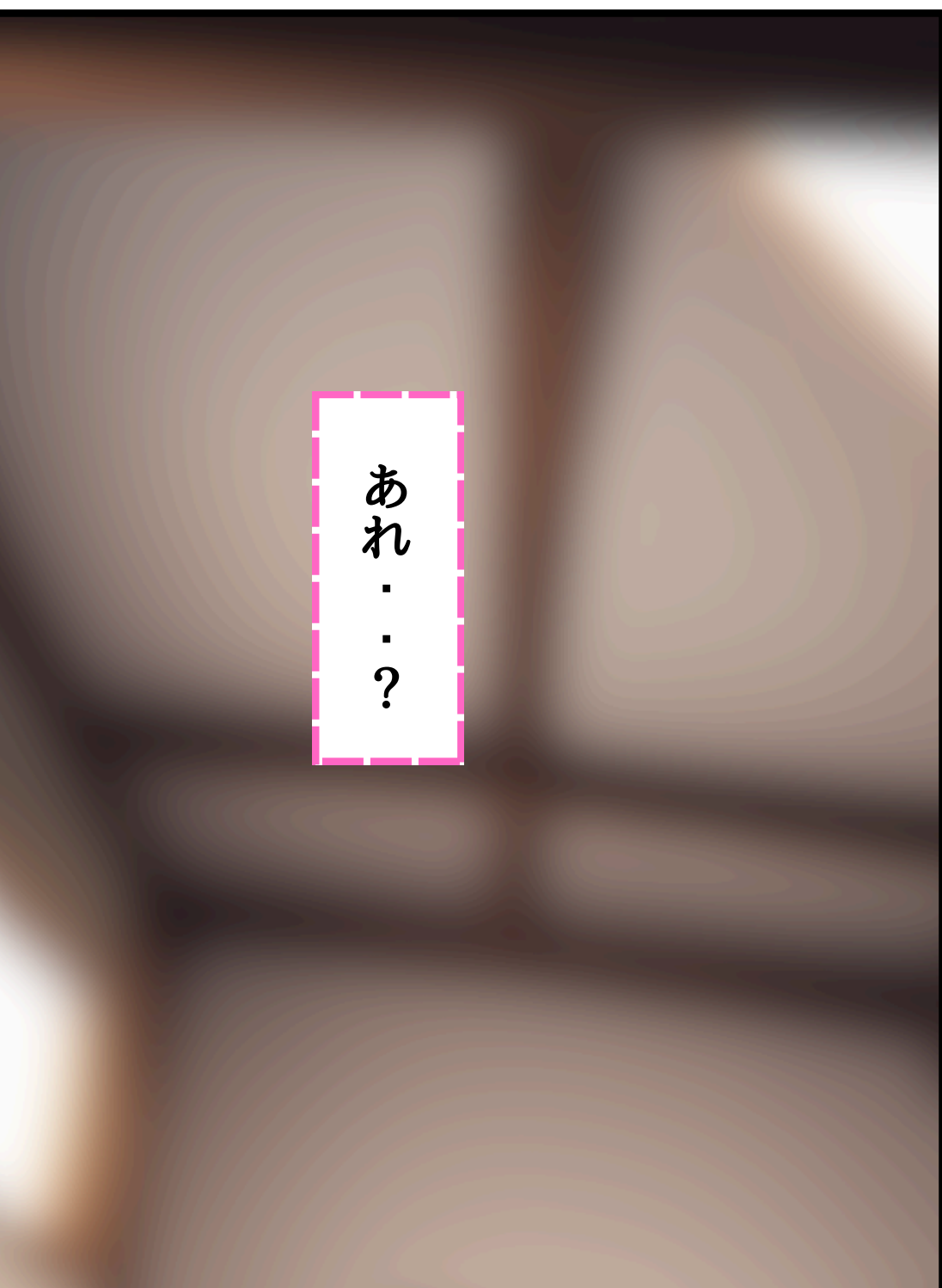
セイレーン団長
見つかったんだってな！

アルファ地方の
ハンス通りの地下で倒れていたらしいぞ。

大きな怪我もなく
無事救出されたようだ。

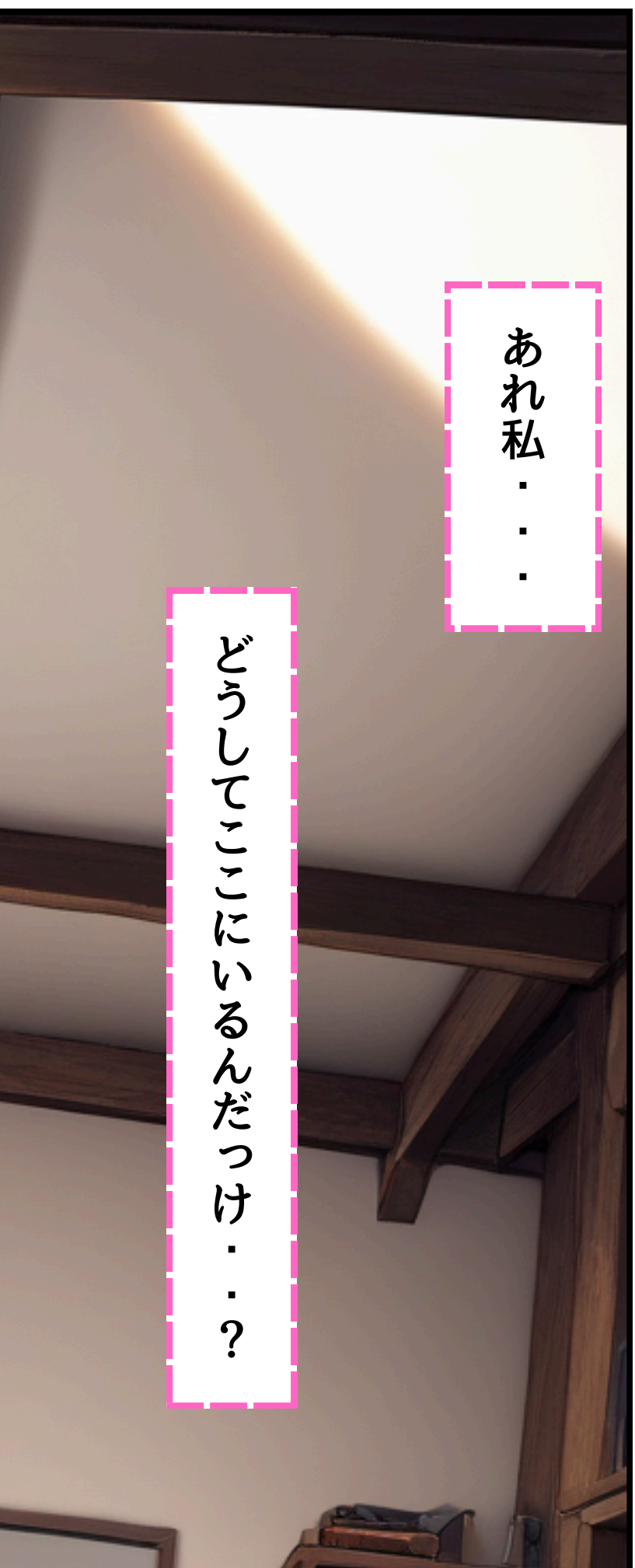
あの最強の
セイレーン団長が……！！

一体何があったんだろうな……





こゝは・・・



あれ私・・・

どうしてここにいたんだっけ・・・？



・・・

あ・・・



目を覚ましたか！

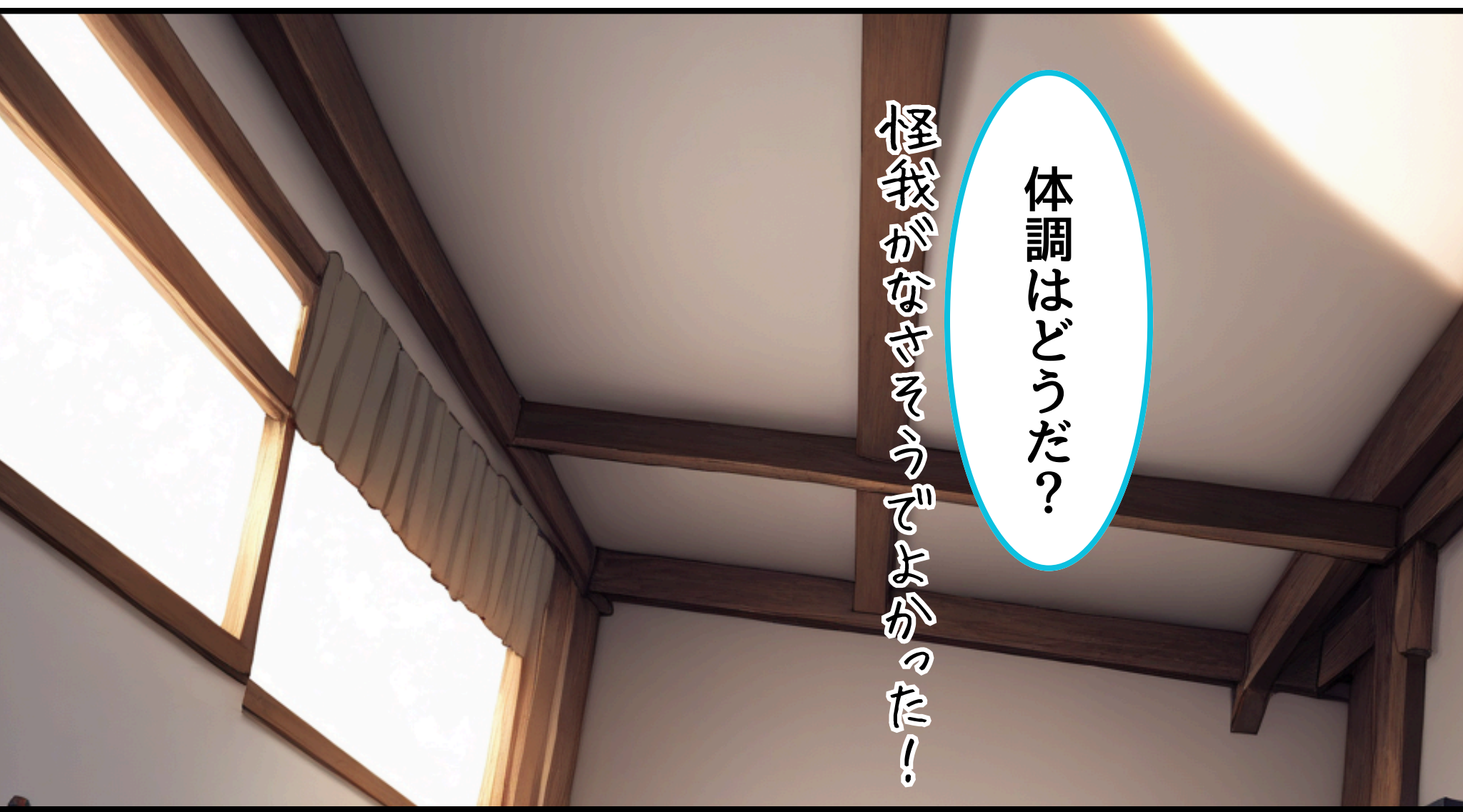
心配したんだぞ！



セイレーン！

スタ

スタ



体調はどうだ？

怪我がなさそうでよかった！



カイル！

えっと私・・・



!!
お前・・・

まさかセイレーンも・・・



どうして・・・

ここにいたんだっけ？



覚えてないのか？

お前は一週間もの間
行方不明になっていたんだ

っ
っ

え・
私が行方不明・・・？

一週間も？

ハンス通りで倒れていたらしいぞ。
一体何があったんだ！

何か思い出さないか？

えっと……

そうだ……！
反乱軍がまたアルファ地方で
暴動を起こして……
人質を取り立てこもっているという
連絡が入って救助に向かったのよね……

それから……



どうして・・・？
何も思い出せない！

グッ



・・・。

そのあと
どうしたんだっけ・・・



お前「も」・・・？
一体どういうこと？

もしかして私だけじゃないの？

やっぱり・・・？



覚えてないか・・・

やっぱりお前も・・・
記憶がないのか・・・？



！
？
なんですって？
カイルも行方不明だったの？



実は俺も・・・記憶がないんだ。
お前と同じところで発見されてる。

俺は多日前にそこで倒れてたらしい・・・



おかしいよな。俺もお前も記憶がない・・・
記憶を消されたのか・・・？
誰が何のために・・・？
見当もつかない・・・。

そんな・・・！
気味が悪いわね。

目的が分からないわ！

この件については
またこれから調査してみなきゃ！

何か思い出せるといいんだけど・・・

それから数日休養をとった後
私は軍務に復帰した。

町の治安維持のための視察を終え
報告のため城へ戻ったところ・・・
一度目の頭痛が起きた。



ぎゅつと頭全体を締め付けるような
鋭い痛みに襲われた。

っつ！

ぐわ

突然の痛みに耐えられず
私はその場に蹲った。

それはまるで大きな手のひらで
頭全体を握り押されているような感覚で……

いたっ

しばらくその痛みに耐えていると
頭の中から知らない男の変な声が聞こえてきて……

ポタッ

ああッ

おいッ

はぁんっ

はぁんっ

ポタッ

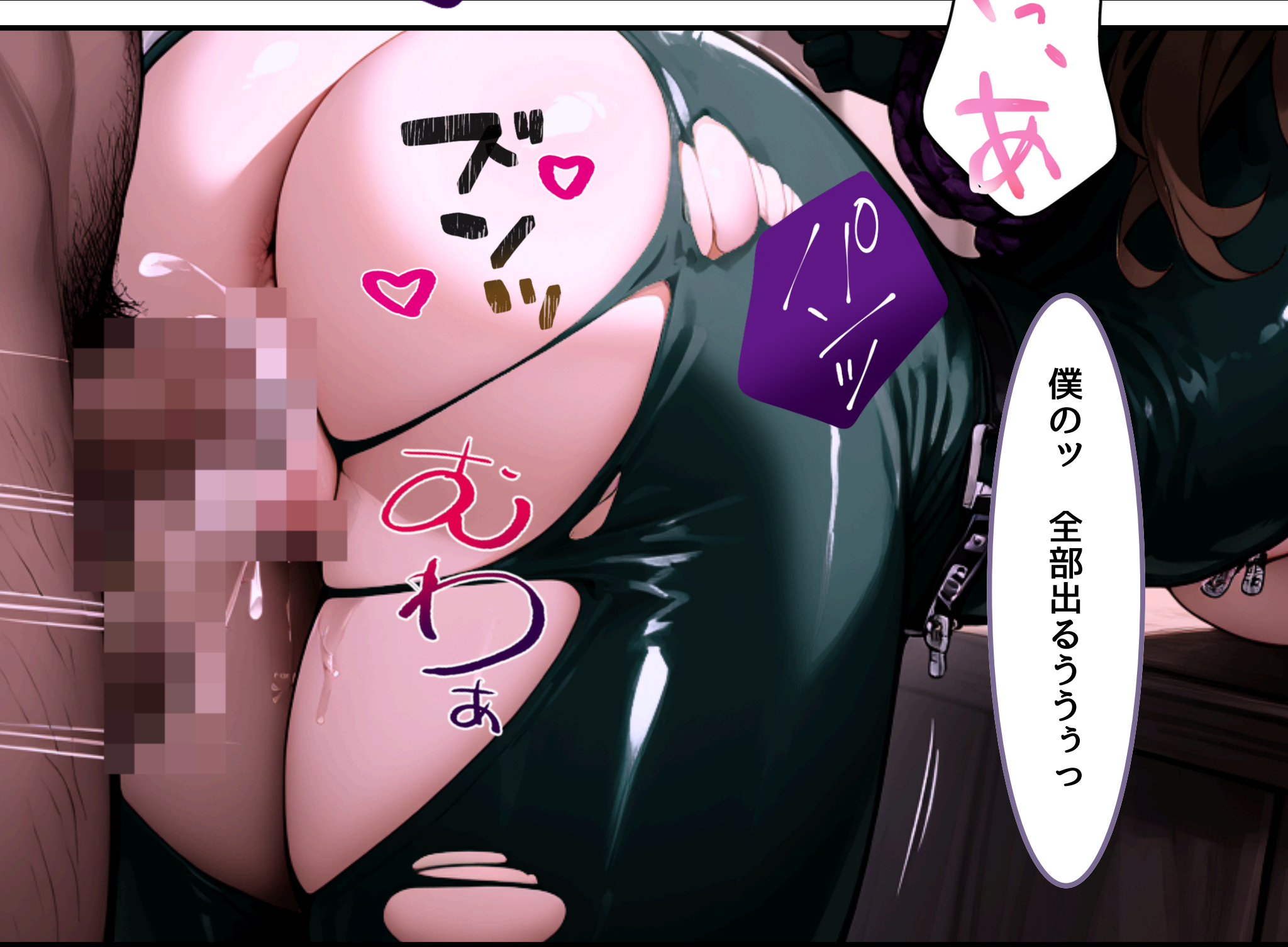
しまるうッ

まるでそれは本当に起こったことの記憶のように
とても鮮明でリアルな・・・

そして私の頭の中にある映像が流れ込んできた・・・

ぴちゃあ





あーるっ

アムム

やっあ

僕のツ 全部出るうううう



映像の中の私は・・・

はっ！

もいっ♡

ゆさっ

ほら・・・セイレーンちゃんツ
舌出してっ

んあっ♡

もみゅ

激しく腰をくねらせて・・・

んあっ



んふっ♡

ハアアツ んっ んむうっ

んふっ♡
んふっ♡

ギ

ああああつ
やあああつ んんっ

顔がよく見えないその男と・・・





んっ♡

ふは
あああっ んぶっ
止まんないよオっ
ハアッ

んっ♡♡♡

くちゅっ

くちゅっ♡

くちゅっ♡

んっ♡

舌を絡ませ合いながら

何度も何度も・・・

獣のように
交わっていた・・・

ギ
ニ
ニ

ギ
ニ
ニ



ほらっ
キスしながら突かれるの
好きでしょおっ

おほお♡

あ♡

んちゅっ

んちゅっ

キッ
ン
ッ

キッ
ン
ッ

あ♡

お♡



あんうっ
いいのおっ

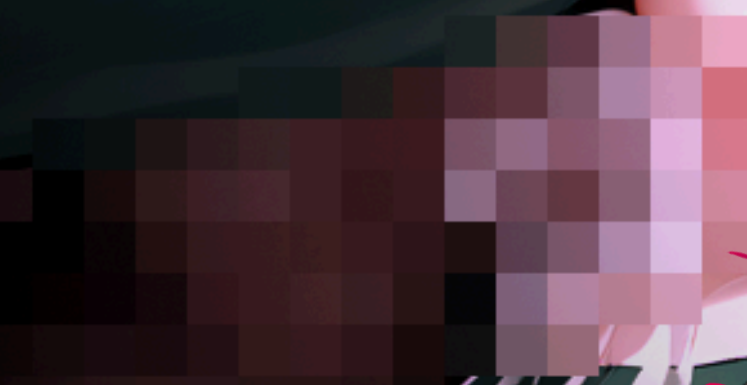
気持ちいいのおおっ

お♡

ぎゅうう

あ♡

あ♡



そして信じられないことに・

その映像を見た時
私の意思とは裏腹に

私のカラダは

熱く火照り・・・

っ・





いあ..

いあ..

いあ..



もい..

あ..

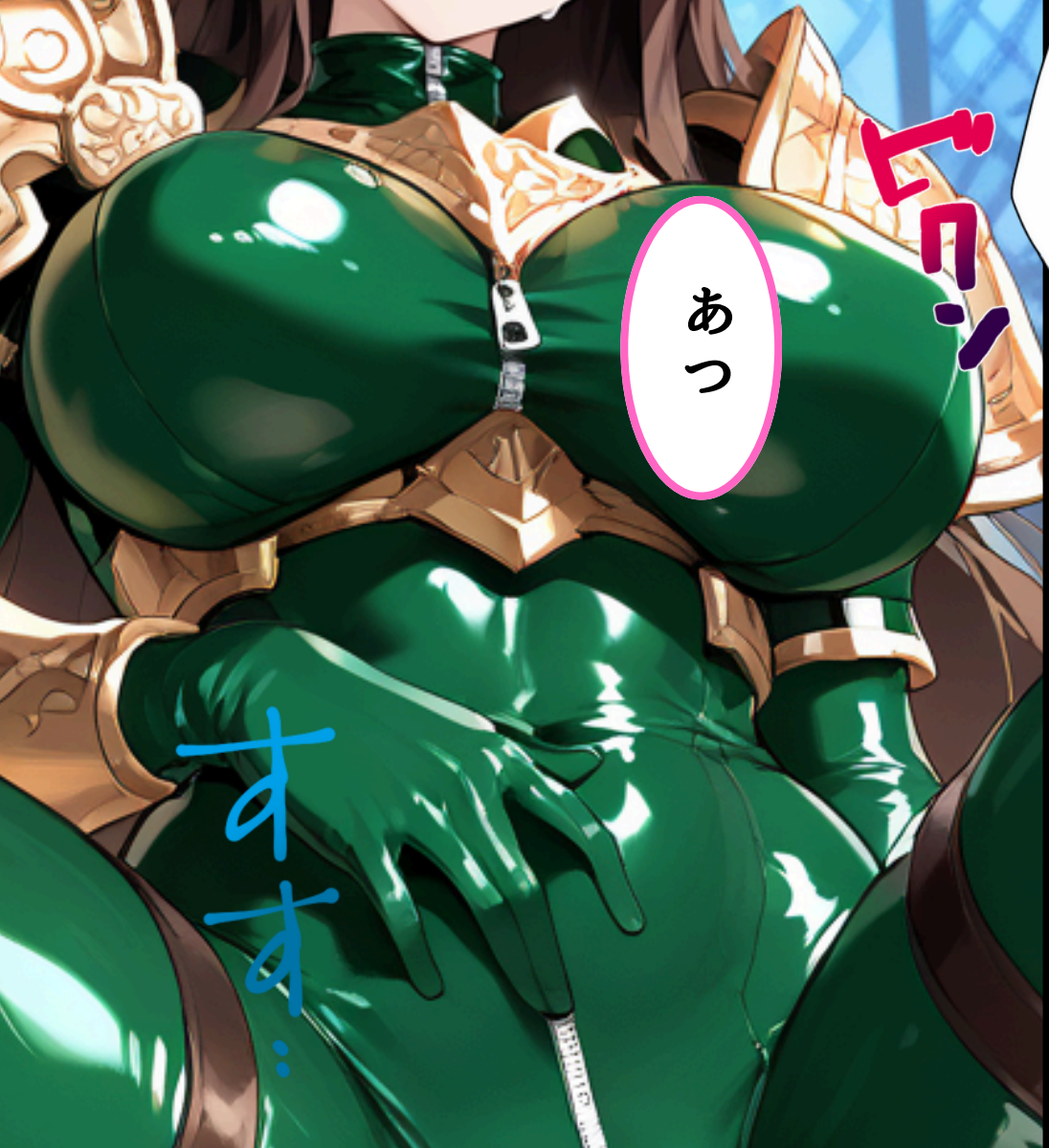
いあ..

いあ..

いあ..

いあ..

気付いたら私は...

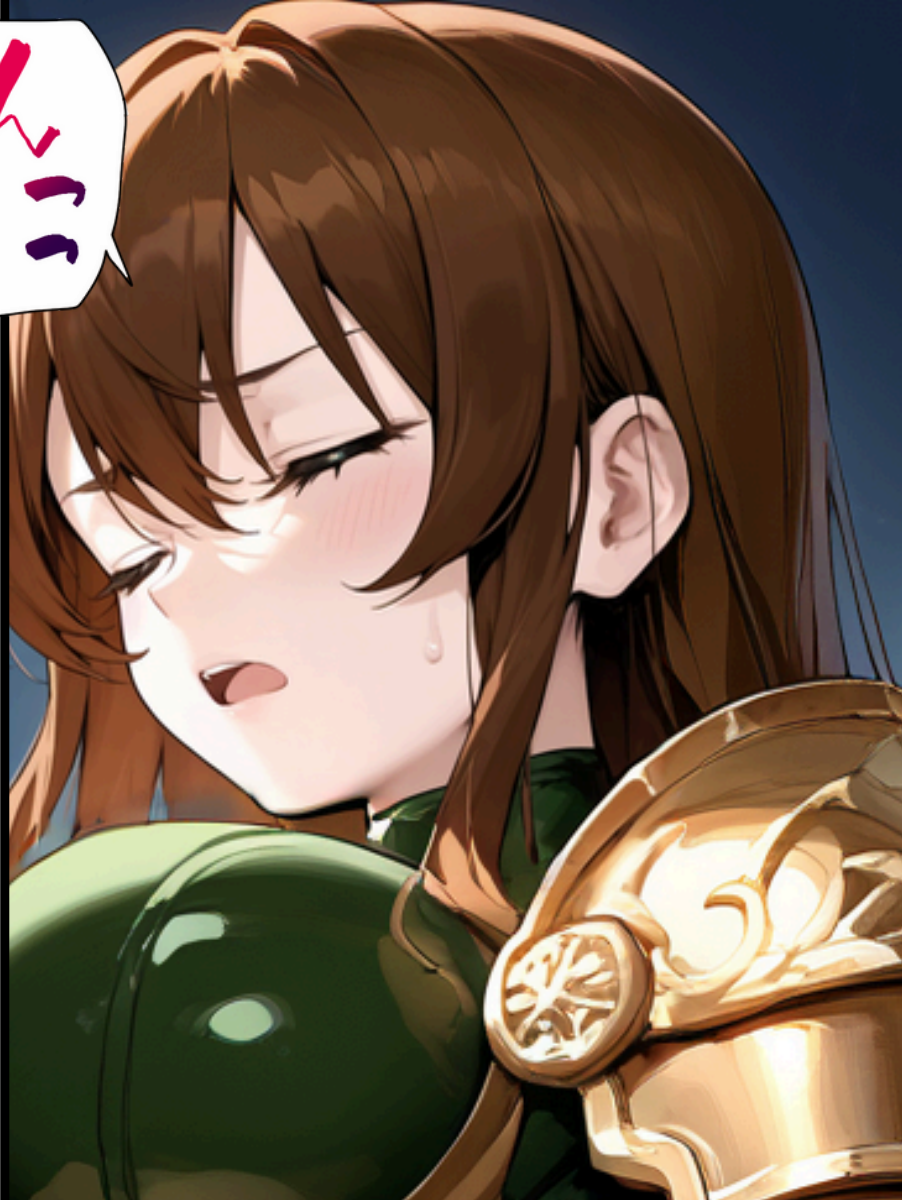


あつ

ゴッ

んっ

すす



自分の股の間に手を当てて・・・



あつう・・・んんっ

すりすり♡

ぬる



ワチュッ

ズクッ

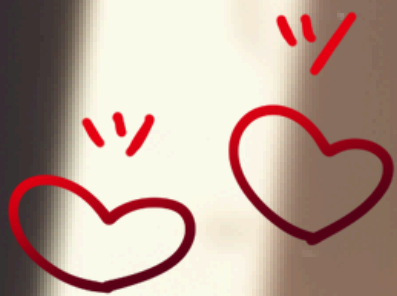


ふうっん・・

ぞくぞくぞく



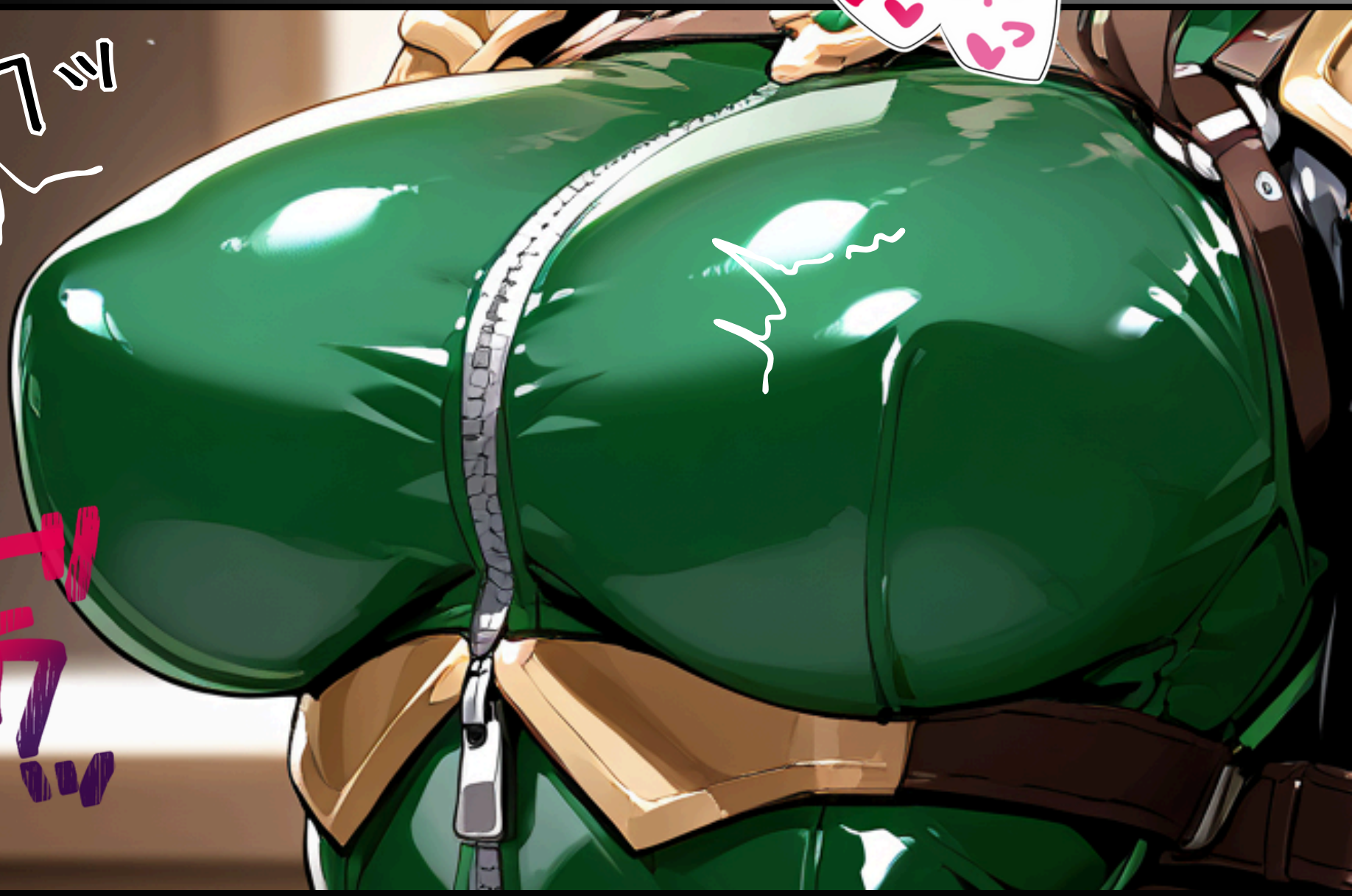
人目も憚ることなく
はしたない行為を・・・



ワッ



ズクッ



続きは本編で
お楽しみください♡

